

十一日

六三

一、蘇東坡詩：「清休養浩氣，志在濟蒼生。」

いふはふのふふふふ

一、此系以殘桂之竹葉造飯，竹根化水，就

啓之部曰：此版在春山，人謂常之曰：此版在春山。

此書口說而書之，後徒性而為書，中無所系。  
名士書之，在田不。

今當此在局向人遊了机四書院南一方坪板房  
拉希崇書院南一方坪同如板房承承之入个个  
他方方方方方方方方方方方方方方方方方方

歷年以來多蒙賜教  
初時書信寥寥

一 和風部 有常月雜來之知月也下小乞

中村玄解 筆法可也 今以能事傳之

二月十日

陸奥郡志

御覽

海月 御覽 傳

方之海月 御覽 傳 海月 御覽 傳

中村玄解 筆法可也 今以能事傳之

海月 御覽 傳 海月 御覽 傳

中村玄解 筆法可也 今以能事傳之

海月 御覽 傳 海月 御覽 傳

海月 御覽 傳 海月 御覽 傳

此より後、中書省の事務は、  
中書省の事務は、

中書省の事務は、  
中書省の事務は、

人おるに

一、中書省の事務は、

一、中書省の事務は、

中書省の事務は、

一、中書省の事務は、  
中書省の事務は、

中書省

二二日

中書省

一 佐々木 幸三郎 佐々木 幸三郎 佐々木 幸三郎

一 佐々木 幸三郎 佐々木 幸三郎 佐々木 幸三郎

一 佐々木 幸三郎 佐々木 幸三郎 佐々木 幸三郎

一 佐々木 幸三郎

一 佐々木 幸三郎 佐々木 幸三郎 佐々木 幸三郎

一 佐々木 幸三郎 佐々木 幸三郎 佐々木 幸三郎

一 佐々木 幸三郎 佐々木 幸三郎 佐々木 幸三郎

一 佐々木 幸三郎 佐々木 幸三郎 佐々木 幸三郎

一 佐々木 幸三郎 佐々木 幸三郎 佐々木 幸三郎

一 佐々木 幸三郎 佐々木 幸三郎 佐々木 幸三郎

一 佐々木 幸三郎 佐々木 幸三郎 佐々木 幸三郎

此方乃為治一切之良方也

此方乃為治一切之良方也

此方乃為治一切之良方也

一 此方乃為治一切之良方也

此方乃為治一切之良方也

此方乃為治一切之良方也

此方乃為治一切之良方也

一 此方乃為治一切之良方也

此方乃為治一切之良方也

此方乃為治一切之良方也

一 此方乃為治一切之良方也

此方乃為治一切之良方也

此方乃為治一切之良方也

此方乃為治一切之良方也

此方乃為治一切之良方也

此方乃為治一切之良方也

此方乃為治一切之良方也

此方乃為治一切之良方也

此方乃為治一切之良方也

三

事

一 田舎の草花を採るに好む人は、花の香りを好むが、

花の香りを好む人は、

花の香りを好む人は、

花の香りを好む人は、

花の香りを好む人は、

花の香りを好む人は、

一 花の香りを好む人は、

花の香りを好む人は、

一 花の香りを好む人は、

花の香りを好む人は、

花の香りを好む人は、

一 花の香りを好む人は、

花の香りを好む人は、

花の香りを好む人は、

一 花の香りを好む人は、

一 花の香りを好む人は、

花の香りを好む人は、



一  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百

[illegible]

一、在學堂中，所有學生，均須遵守學堂規程，不得有違。

一、步為之程遠極矣。此乃  
自古

一、朝起以氣力爲貴者

[illegible]

一、商賈之盛，乃正量權之利。人  
為之，故其利亦大。古之所謂  
物產，乃利之源。

一、吳中興利源  
一、吳中興利源

劉協之書  
劉協之書

春

高儒忠

梓內

惠風和暢

[illegible]



以上 行書 卷八 行書  
伴百少 卷八 卷陽 下 卷八 卷八  
卷八 卷八 卷八 卷八 卷八 卷八  
卷八 卷八 卷八 卷八 卷八 卷八

以上 行書 卷八 卷陽 下 卷八 卷八  
卷八 卷八 卷八 卷八 卷八 卷八  
卷八 卷八 卷八 卷八 卷八 卷八  
卷八 卷八 卷八 卷八 卷八 卷八

以上 行書 卷八 卷陽 下 卷八 卷八  
卷八 卷八 卷八 卷八 卷八 卷八  
卷八 卷八 卷八 卷八 卷八 卷八  
卷八 卷八 卷八 卷八 卷八 卷八

以上 行書 卷八 卷陽 下 卷八 卷八  
卷八 卷八 卷八 卷八 卷八 卷八  
卷八 卷八 卷八 卷八 卷八 卷八  
卷八 卷八 卷八 卷八 卷八 卷八

以上 行書 卷八 卷陽 下 卷八 卷八

俄好之徒至今  
 宣坊老麻  
 卡里胡古村  
 山所产  
 少者以上

丁巳

丁巳

一、政名何是又主程的處正自以古而能  
 今即奉書以到來昭昭行也  
 此以在方而為其信合之而相與  
 唐亦以是用了不為其信合之而相與  
 元子子  
 元子子

二、四宮

宣

凡書之始不若篆隸之工

[illegible]

一 拉活年帝

行旅中に附人云云

中後分：此等情事入目、方中今、此等情事  
物、中後分

一、明、中後分、此等情事、此等情事、此等情事、  
此等情事、此等情事、此等情事、此等情事、

一、明、中後分、此等情事、此等情事、此等情事、  
此等情事、此等情事、此等情事、此等情事、

一、明、中後分、此等情事、此等情事、此等情事、  
此等情事、此等情事、此等情事、此等情事、

中後分

一、明、中後分、此等情事、此等情事、此等情事、  
此等情事、此等情事、此等情事、此等情事、

一、明、中後分、此等情事、此等情事、此等情事、  
此等情事、此等情事、此等情事、此等情事、

一、明、中後分、此等情事、此等情事、此等情事、  
此等情事、此等情事、此等情事、此等情事、

一、明、中後分、此等情事、此等情事、此等情事、  
此等情事、此等情事、此等情事、此等情事、

一、明、中後分、此等情事、此等情事、此等情事、  
此等情事、此等情事、此等情事、此等情事、







其後。一。公。之。家。有。一。女。名。之。曰。小。女。也。其。年。方。十。有。五。也。其。性。情。溫。和。而。有。才。華。也。

一。其。後。之。日。其。父。母。又。有。一。女。名。之。曰。小。女。也。其。年。方。十。有。五。也。其。性。情。溫。和。而。有。才。華。也。

一。其。後。之。日。其。父。母。又。有。一。女。名。之。曰。小。女。也。其。年。方。十。有。五。也。其。性。情。溫。和。而。有。才。華。也。

一。其。後。之。日。其。父。母。又。有。一。女。名。之。曰。小。女。也。其。年。方。十。有。五。也。其。性。情。溫。和。而。有。才。華。也。



日出不以爲  
竹樓上坐常  
事老為君不  
只今書卷分  
上斗世王公

[illegible]

一  
胡  
十  
五

生西子家

[illegible]

一 世帯主は長子とあるが、長子に長子あり、  
おやふ利のふは、はるかに、

二 中身は、ついで、ついで、ついで、  
三 屋敷、おやふ、おやふ、おやふ、  
四 別荘、おやふ、おやふ、おやふ、

五 養子、おやふ、おやふ、おやふ、  
六 養子、おやふ、おやふ、おやふ、

七 養子、おやふ、おやふ、おやふ、  
八 養子、おやふ、おやふ、おやふ、  
九 養子、おやふ、おやふ、おやふ、

一〇 養子、おやふ、おやふ、おやふ、  
一一 養子、おやふ、おやふ、おやふ、  
一二 養子、おやふ、おやふ、おやふ、

一三 養子、おやふ、おやふ、おやふ、  
一四 養子、おやふ、おやふ、おやふ、  
一五 養子、おやふ、おやふ、おやふ、

一六 養子、おやふ、おやふ、おやふ、  
一七 養子、おやふ、おやふ、おやふ、  
一八 養子、おやふ、おやふ、おやふ、

一九 養子、おやふ、おやふ、おやふ、  
二〇 養子、おやふ、おやふ、おやふ、  
二一 養子、おやふ、おやふ、おやふ、



一 市役所内は虎口の中を常時控る方虎口を  
常時と知れ別り方方々々常時と知れ  
ありて御し方々々々常時と知れ

市役所内は虎口の中を常時控る方虎口を

市役所内は虎口の中を常時控る方虎口を

一 市役所内は虎口の中を常時控る方虎口を  
常時と知れ別り方方々々常時と知れ  
ありて御し方々々々常時と知れ

一 市役所内は虎口の中を常時控る方虎口を  
常時と知れ別り方方々々常時と知れ  
ありて御し方々々々常時と知れ

市役所内は虎口の中を常時控る方虎口を

一 市役所内は虎口の中を常時控る方虎口を  
常時と知れ別り方方々々常時と知れ  
ありて御し方々々々常時と知れ

一 市役所内は虎口の中を常時控る方虎口を  
常時と知れ別り方方々々常時と知れ  
ありて御し方々々々常時と知れ

一 市役所内は虎口の中を常時控る方虎口を  
常時と知れ別り方方々々常時と知れ  
ありて御し方々々々常時と知れ

一 市役所内は虎口の中を常時控る方虎口を  
常時と知れ別り方方々々常時と知れ  
ありて御し方々々々常時と知れ

一 市役所内は虎口の中を常時控る方虎口を  
常時と知れ別り方方々々常時と知れ  
ありて御し方々々々常時と知れ

市役所内は虎口の中を常時控る方虎口を

一 市役所内は虎口の中を常時控る方虎口を  
常時と知れ別り方方々々常時と知れ  
ありて御し方々々々常時と知れ











多入山を載し上りて言ふ所は曲なり  
と云ふ身方の義ありと云ふ所は  
仰るなり

一 此所より行きて後世なるものなり  
と云ふなり

一 此所より行きて後世なるものなり  
と云ふなり

一 此所より行きて後世なるものなり  
と云ふなり

一 此所より行きて後世なるものなり  
と云ふなり

一 此所より行きて後世なるものなり  
と云ふなり



[illegible][illegible]

富貴之禮亦動之  
所月之空而臨之礼云云  
而之礼又亦半七之近  
之而名之空之四之空之

百

所願

[illegible]

一 臣民等 所請 凡有 乞求 恩 免 者 亦 宜 從 之

一 南强学校附中三周年纪念 傅伯林书于台北





